

喜寿記念文集第2編

私達が生まれ育ったあの頃のこと

岡山朝日高校で学んだ頃

昭和三十二年入学

昭和三十六年卒業生有志

「経年美化」の人生を望む

馬場 勉

ペルシャ絨毯は、足で踏まれて使えば使う程、すなわち使い込むほど美しくなり美術的にも経済価値も上がり「経年美化」するそうだ。劣化ではない、念のため。

昭和三十六年三月に朝日高校を卒業したのだから、来年の三月で高校卒業後六十年が経過したことになり、卒業生は等しく例外なく齢七十八歳、或いは七十九歳になる。

考えるまでもなく、一生懸命に走り続けて、いつの間にか後期高齢者になってしまった。

私は、過去は忘却して、前を向いて歩いてきたから、長い期間にわたり写真はほとんど残っていない状態である。ただ、文章はたくさん書いた。さらに、朝日高校時代は劣等生で、(亡)女性歌手藤圭子さんの歌の言葉ではないが、「私の人生暗かった」ので、あまりいい思い出も、良い思い出もないのでありますが、先の文集に続いて二弾目の記念集を作成する由です。断片的に徒然なるままに思い出しながら書いてみたいと思います。

私は、岡山大学病院（鹿田キャンパス）の商店街の一角に居住し、鹿田小学校、桑田中学校に通い、朝日高校から中央大学へと進みました。昭和三十九年度から制度化された不動

産鑑定士の試験を受けて、不動産鑑定業及び行政書士の事務所を細々と続けてきて、既に五十年余りなります。

いまだ、心身ともに健康で気力もあふれているので、俗にいう現役を貫いています。我が道を行く心意気です。

平素は、岡山市に住み、時々、大阪・京都・東京そして外国等色々なところを物見遊山を兼ねて旅をしています。結構楽しくやっていると自分ながら思っています。

さて、小学校の頃は、よく岡山大学の鹿田キャンパス内で遊んでいました。木造の病棟が多くあったし、黒く塗ったビル（戦時中爆撃の目標とならないために黒く塗ったようだ）なども立地していたが、岡大の考古学教室による度々の発掘の後、ビルが建って、すっかり様子が変わってしまったようです。特に、円筒形の蓮池が病院の入口の辺りにあったのが、印象に残っています。

また、天満屋の屋上に遊びに行つて、南南西の方角をみると大学病院の建物が見えていた。あの辺りに住んでいるのだと感慨深く見入ったものだった。遮るものは、何一つなかったから、戦後は焼け野原で見えていたのですが、現在は、屋上に行くこともないが、高い建物が建っているので大学病院を見ることは不可能でしょう。

岡山朝日高校に合格して、明日が入学式だという夜、角帽を枕元に置いて寝た思い出がありますが、ほとんど学校には角帽は被らないで行つたように思います。角帽は何処にいつ

たか分からなくなりましたが……。高校の時は、シャイなところがあつて、女子学生の人とは、ほとんど話をしなかったように思います。いまだに男子学生の名前を聞いてもわからない同級生が多いのも現実です。

朝日高校の時の思い出を思い出すままに書いてみます。

① 富士登山があり、参加したが台風が来たらしく、雨のため途中で引き返して旅館で着替えしたら、床を濡らしたため旅館の人がいい気持ちじゃなかったよ
うで、小言を言っていたのが印象に残っています。

② 運動会の時、一学年上のHさんがムカデ競争の途中に転倒し、打ちどころが悪くて、首の骨を損傷して、重体となり長い間旭川荘で闘病生活をされていたが、数年前亡くなった由です。妹さんが兄の看病に尽力し、結婚しなかったと風の便りで聞いています。日生（ひなせ）の出身の方で優等生だった。ひとかどの人になられた方だと思ひ残念でたまりません。私の斜め前で転んだのでよく憶えています。

③ ある時、担任の先生だったと思うが、辻先生（？）からオヤジに学生指導員（正式の名前ははっきり憶えていません）になってほしいとのことだった。オヤジはそんなおそれることが出来るような人柄でないとお断りしたが、お上のいう事だから、お受けすること

になったのですが、その任命の理由は、兄弟姉妹の中で女性のなかに一人息子の場合、不良になる確率が高いという経験則から、私家がそれに該当するという事で、依頼された由でした。

女三人、男一人の子供の家庭でしたから、私が不良になる可能性が高いので、事前に対策を考えてくださったようです。ただ、学生の時には問題はありませんでしたが、その後、やはり社会人になってからは多勢に無勢で、兄や弟の応援団がなく苦労しましたから、そういうものかと納得しています。

④ 大学に進むことになり、どこを受験しようかと思つて、パラパラと蛍雪時代という受験雑誌を見ていたら、東京大学よりほぼ倍の司法試験の合格者を輩出している中央大学という大学があるのにびっくりして、オヤジに中央大学という学校が東京にあるのかと尋ねたら、出身者に弁護士さんなんかが多い大学で東京の神田駿河台（お茶の水）にあるという事だった。

恥ずかしながら、中央大学という学校を知らなかった。私立は六大学野球の学校程度しか存じてなかった。にもかかわらず、中央大学に入学して卒業したのだから、人生わからぬものである。「人間万事塞翁が馬」ということか。これが私のその後の人生を決めることになった。

⑤ 一浪中、学校の補習を受けていた時に、M君が自殺したことがあった。かなりショックな事だったが、何もしてやれずかわいそうな事をしたと今でも後悔している。国道五十三号線を走るときにM君の出身地を通ると思ひ出す。いつまでたっても、忘れないものである。忘却とは忘れ去ることだが、忘れえぬことはつらいことだ。

⑥ 人生わからぬものである。中央大学法学部の学生は確かに司法試験を目指して勉強をするものが多かった。私も人並みに司法試験を受けたがダメだった。私のようなB型の人間には、緻密なものの考え方や論理の展開は性に合わないらしく、むしろ不動産鑑定士の方が相性が良かったので方向転換した事になった。これまた人生どう転ぶかわからないものだ。思ひ出すのは、民法の授業中、教授が不動産鑑定士という試験制度ができると話された。その先生は試験問題の出題の担当教官だったらしかった。それがきっかけで興味をもって、不動産鑑定士の世界に入ることになった。これもまた人生わからぬものである。会計学、経済学、不動産鑑定理論など、真新しい学問に頭を突っ込んで、幅広い視野に立って、不動産に限らず広く物事を判断するようになれた。さほど理論武装は必要なく、事務所と対象不動産の実地調査に明け暮れた。B型人間には、向いて

いたらしい。ただ、易者いわくB型人間は、一般的には、女性には優しい性格らしいから、注意が必要である。特に、悪い女性がいるから身を滅ぼさないようにと注意されている。今のところ大きな損害はないが、少しはあったように思うところありか？

⑦ 以上のような次第で、大まかに思ひ出してみた。大きな病気はしなかったが、四国お遍路を車で十二巡していた最中に足を痛めて中断した。一昨年、昨年、足のひざ等を悪くした。人工関節を入れたりして、岡山市市民病院には、大変お世話になった。神の手をもつ名医がいらして助かった。コロナで大変な時期でもあり、感謝の意を込めて寄付金を納めさせてもらった。感謝状を拝受した。松本理事長・院長さんが私の感謝の意を斟酌して、若い研修中の医師の教育などをする費用に充てたいとの意向だった。ありがたいことです。

また、母校の中央大学からコロナで学生さんが経済的に苦労されている由で、自分の学生の頃のことを思ひ出して、寄付金に応じた。思うに、経済的に収益を上げている企業などは、積極的に寄付をしたらよいのではないかと思う。税務署に納めても感謝してくれません。納税は国民の義務で当たり前ですから。アメリカでは、大学等に寄付をする習慣があり、有名大学が寄付金をファンドにして収益をあげているとのことですから、

日本もアメリカのように、天災飢饉やコロナを経験したことにより、ボランティア精神が生れ、これからは寄付文化を根付かせたらよいのではないかと考えています。

⑧ 色々思いつくままに書いてきましたが、作家の五木寛之さんのように八十歳代後半（1932年9月生）でも精力的に元気に執筆されている方も多いのですから、皆さん、これからです。天台宗祖最澄（伝教大師）の「一隅を照らす、これ国宝なり」の精神で老後を楽しく生きていきましょう。

追伸

① 先日、朝日高校から同窓生宛に会報「朝日」が届いた。パラパラとみていたら卒業生で比較的多くの合格者が出ている大学の合格者数なるものが記載されていた。その中に中央大学も名があり、過去三年間の平均合格者数が一年当り十八名になっていた。私の頃は五人程度しか合格者がいなかったから、随分増加したものだと思った。

今は東京都八王子市の山の中に校舎があり、渋谷、新宿、東京等とは比較にならない田舎であるにも関わらず、朝日高卒業者が増加したのは嬉しい。ただ、明治、日大等は大学が移転しなかったのに、中大は

都心から郊外に移転した。このことは大失策だったと思う。残念ながら後悔している。現在は都内に校舎を返す段取りのようだが、何事も廃業や移転、新増築などの時は、よくよく十二分に考えて熟考してから行うべきだと思う。専門家の端くれの教訓として述べさせて頂きたい。

② 人生100年時代。学生の頃、八十歳近い人は老人であり、かつ、あまりいなかったように思うが、食生活が良くなり医療が顕著に発展したため、予測以上に長生きするようになり、逆に長生きするのが苦痛になることもなった。

老々介護という思いもよらなかったことが、現実になった。介護施設と学校に行く子供たちで、日中は若者とサラリーマンだけの街の風景となっている。元気に長生きするためには、①認知症にならないこと。②自分の足で歩けること。が必要条件だそうだが、だから、自分は自分で守る心掛けが必要だろう。願わくば一〇八歳まで生き、老衰で楽に死にたい。一〇八煩惱を一年にひとつづつ消却していければ幸せだが・・・。

私は新聞七紙、週刊誌四冊を購入し、その他諸々の書籍を買って積読している。テレビで好きなのは「ブラタモリ」、「ポツンと一軒家」、「開運」な

んでも鑑定団」などをよく見ている。昨年、「開運」なんでも鑑定団」で硯を買った。全国放送されたが、未だ書の練習ができていない。貧乏暇なしの状態だからだ。

書、絵、本その他我楽多を集めて（本当は衝動買い）置き場がなくて、ゴミ屋敷になりつつある。これも収集が生甲斐でもあるから仕方がないのか？

③ 野口英世博士の言葉が人生指針になる「過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。人生で変えることができるのは、自分と未来だけだからだ」を心に留めて残された人生を充実かつ楽しく生きたい。

私の座右の銘である「自今生涯」も同意義かと思う。即ち、今から生涯は始まるというほどの意味合いであるからです。

④ 私（ワシ）は、専門家や学者等ではなく、一介の職人気質の実務家ですが、僭越ながら、過去には連載の文章を書いたり、講演をしたり、非常勤講師を頼まれたり、審議会委員を仰せつかったり、色々長い間には専門外の分野で不肖ながら行動したものであります。

未だ、隠遁生活には興味がなくコロナに負けずGOTOを利用して旅に出たりしている。

本来なら今年は四月から岡山商科大学の社会総合研究所の特別研究員に採用されたため、教壇に立つて学生相手にとりよめのない講義をする予定だったが、コロナで学校が封鎖されて、実現されていない。残念ですが、仕方がないです。

ただ今、心を悩ましているのは、不動産鑑定士の受験希望者が減少し、ジリ貧状態です。決して悪い職業ではないと思っていますが……。岡山では、四十歳以上の会員ばかりで二十歳代や三十歳代が一人もいません。この状態が続けば、将来は公の仕事がこなせずに実行できないことになりかねません。我々の頃は、全学連に介入した元気のよい若者が頭は良いのだが、企業から就職を拒否されたため、自由闊達に仕事のできる斯界に相当数流入したものです。左、右の思想の持ち主でないノンポリの若者でも、真剣に世の中を悩んだりしていましたが、最近の若者は保守的になったのか？悩まないのか？

覇気のある若者が多く受験して、将来を支えてくれたらと思っています。私（ワシ）は相当数の若者を養成して送り出しましたので、諸先輩の先生方には、それなりの恩返しは出来たつもりです。若き挑戦者を我々は求めています。定年のない気ままな職業ですからチャレンジする価値はあると思っています

が・・・。

⑤ アメリカの大統領がバイデンさんに確定した。なんと彼は一九四二年十一月二十日生まれの七八歳間近です。元気に情熱を燃やしてアメリカの分裂から融和のため、かつ、世界平和のため尽力したいとのこと。我々と同年輩です。見習いたいものです。もつとびつくりするのはマレーシアのマハティール首相は九十五歳で元気に活躍されていました。上には上がいるものですね。

なお、マハティール首相の講演を拝聴したことがあります。今から二十年程前に岡山経済同友会の招きで岡山に寄られて話をされた。話の内容は忘れたが、オーラのある方だった。

⑥ 最後に、私は過去四十年以上、大型のカレンダーを自分が欲しくて作製し、友人・知人にお裾分けさせてもらっている。書き込みができ、一年中が俯瞰できるので喜んで使ってもらっている。もし、御利用して下さる方がいらっしゃるようでしたら、FAX 086-2223-5839 か、携帯 090-7128-2873 に御連絡してください。御送付させていただきます。

⑦ 以上、長々とつまらない拙文をお読みいただきありがとうございます。岡山の地より皆様の御

健康と御多幸をお祈りいたしております。機会があれば、お会いできることを楽しみにしております。

令和二年十一月十日記す。

合掌

